医療安全における検査部の役割

◎諏訪 しのぶ[1)]、諸橋 八千雄[1)]、大内 明[1)]
地方独立行政法人 山形県・酒田市病院機構 日本海総合病院[1)]

【はじめに】

当検査部では2018年度より、検体提出不備を含む臨床検査関連のレベル0以上の事例（以下不備事例）について、発生後速やかに発見者としてインシデント報告を行ってきた。これは依頼者・採取者・提出者（以下顧客）に事例の迅速な振り返りと再発防止を促すことを目的としている。

また当検査部はISO15189認定取得を目標に、2017年度より検査手順の明確化と統一化のための活動を行ってきた。この手順の明確化と統一化は、インシデントの改善策（是正）を考える上で非常に重要である。

【2018年度の活動内容】

インシデント報告例数：（ ）内は全体に占める割合

検査部127例 / 病院全体 1496例（8.5%）

※2017年度例数　71 / 1746（4.1%）

※いずれも当事者、発見者事例の総数

【考察】

発見者としてのインシデント報告を開始したことで例数は増加した（2017年度は発見者報告無し）。また、開始直後は看護部との軋轢が生じたこともあった。しかし、顧客側の目線に立ち、手順に沿った業務のし易さを目的とした改善案を考え提案し続けたことによって、理解が得られるようになった。更に、インシデント報告システム更新ワーキンググループへの参画、院内の医療安全対策マニュアル改訂時に検査部の採血手順が参考資料となる等、次第に検査部の意見を求める気運も高まってきた。これは、ISO15189認定を取得した検査部が、手順書に従って統一化した業務を行っていることへの信頼感と理解が深まったことも1つの要因と考えられた。

【まとめ】

不備事例につき検査部が発見者としてインシデント報告をすることは、再発防止を目的に踏み込んだ対応となった。顧客側の目線に立ち手順に沿った提案を継続する検査部の姿勢が理解される中、臨床検査に関する事は検査部が主体的役割を持って活動することが重要と考えられた。

連絡先　0234-26-2001（内線4202）